

◎キリスト教 CD が税関で没収、女性信者が政府を告訴

【マレーシアナビ、12/01】インドネシアから持ち込んだキリスト教の教育 CD が税関で没収されたことをめぐり、マレーシア人キリスト教徒女性が信教の権利が侵害されたとしてマレーシア政府を高等裁判所に訴えでた。

訴えを起こしたのはジル・アイルランドさんで、5月11日にジャカルタからクアラルンプール (KL) に戻った際に、税関で CD 8 枚を没収されたと主張している。没収の理由について内務省は、非イスラム教徒の信仰に関する書物での表記が禁じられている「アラー」という言葉が CD のカバータイトルにあったからだと文書で回答したという。アイルランドさんは、CD は個人で使用するためのものであるとして持込みを認めるよう求めている。

マレーシア政府は昨年、非イスラム教徒が「神」に相当するアラビア語源の「アラー」という言葉を用いることを禁じると発表。マレー語の聖書で「神」に言及する際に「アラー」を用いてきたキリスト教会は反発、あるキリスト教会とキリスト教徒向け新聞が禁止令に異議を申し立てている。

(インターナショナル・ヘラルド・トリビューン、11月28日)

■ <http://www.malaysia-navi.jp/news/081128070726.html>

◎ダライ・ラマ「望みは独立ではない」 欧州議会で講演

【アサヒ・コム、ブリュッセル＝井田香奈子、12/04】チベット仏教最高指導者ダライ・ラマ14世が4日、ブリュッセルを訪れ、欧州連合 (EU) の欧州議会で講演、ペテリング議長とともに記者会見した。チベット問題に触れ「私たちの望みが独立でないことを明確にしたい。全体主義の中国が、健全で調和した社会になるよう求めているのだ」と述べ、中国当局との対話に期待を示した。

ペテリング議長は「我々は中国の領土の一体性を尊重している」としたうえで「チベットの人たちが文化的、宗教的アイデンティティを保てるようにすべきだ」と呼びかけた。

ダライ・ラマは6日にはEU議長国フランスのサルコジ大統領と会談する予定。これらの日程を知った中国政府の求めで、1日に予定されていたEU・中国首脳会談は延期され、新たな日程は入っていない。

■ <http://www.asahi.com/international/update/1204/TKY200812040321.html>